

第 44 回 大島研介さん (神奈川大学)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第 44 回目は、大島研介さんにご執筆いただきました。

点字は謎がいっぱい

点字は駅のエレベータやお酒のラベルなど様々な場所で目につく身近なものです。しかし、実際に点字を利用している人はそれほど多くなく、(古いデータですが、) 盲の視覚障害者の 10%程度が点字ユーザであると言われてきました。加えて、早期に失明した場合と比べ、失明時期が遅いと、点字の習得・熟達が困難になることがわかっています。

このような問題と関連して、点字の構造 (主にサイズ) が万人にあっていない可能性から、ユーザにより読書の過程が異なる可能性など、心理学で扱うべき課題がたくさんあります。私は実験心理学の方法論を用いて、触覚の特性を中心に、点字の読書と関連する要因の特定を目指した研究を通じて、(道のりはとても長いですが、) 少しずつ課題を紐解いていきたいと考えています。

大島研介 (Kensuke OSHIMA) さん

【ご所属】 神奈川大学

【ご連絡先】 smentics@gmail.com

【ホームページ】 https://ppp2013.com/Kensuke_Oshima/

【その他】 片手間で iOS アプリの開発者もしています。現在、公開しているのは、iPad アプリの「Muller-Lyer illusion」というものです(QR コードを参照)。開発速度は遅いですが、(心理学に関わる) こんなアプリがほしいと希望を出すといつかストアで公開されるかもしれません。

